

令和 2 年 度

校 園 別 研 究 目 標

大 阪 市 教 育 委 員 会

目 次

幼 稚 園	1
小 学 校	2
中 学 校	10
高 等 学 校	17

校 園 別 研 究 目 標

「校園別研究目標」は、校種別に各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動などの課題を示したものである。

学習指導に当たっては、幼児・児童・生徒一人一人の実態を的確に把握し、個々の状況に応じた指導・支援を行うために、学習活動、学習形態、評価方法及び教材・教具などを工夫することや、幼児・児童・生徒一人一人が意欲をもって自ら考え、判断し、表現できるような指導方法・指導体制の工夫改善を図り、学び方を身に付け、学ぶ楽しさを実感できる授業の展開に努めることが重要である。

また、小中一貫した教育をはじめとする校種間連携を一層推進するため、全ての教科・領域において、校種間の円滑な接続を図るための研究に努めることが大切である。

なお、新しい教育要領、学習指導要領が平成 30 年度より各校種で順次完全実施されていることに伴い、各校園において適切に教育課程が編成され、実施されるよう研究に取り組むことが大切である。

◇ 幼 稚 園

(1) 総 合 目 標

自ら環境に働きかけ、力強く、主体的に生きる人間の育成をめざす幼稚園教育を推進するために、人間尊重の立場にたち、幼児の発達の特性に応じ、幼児期にふさわしい生活及び発達や学びの連続性をふまえて、環境を通し、遊びを中心にした総合的な指導により、望ましい人間形成の基礎を培うことについて研究する。更に、一人一人の発達の特性に応じて、もてる力を高めるための教育的支援について研究する。

(2) 具 体 的 目 標

- ア 健やかで幸福な生活のための基本的な習慣や態度を身に付け、心身の調和的発達を図るために、健康な心と体を育て、進んで体を動かし、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を育てる指導のあり方について研究する。
- イ 家族や身近な人への信頼感を深め、自主、自律及び協同の精神並びに規範意識の芽生えを養うために、いろいろな人々と親しみ、支え合う集団生活を通して、自立心を育み、人と関わる力を育てる指導のあり方について研究する。
- ウ 身近な環境や生命及び自然に対する興味を養い、それらに対する理解と態度及び思考力の芽生えを養うために、周囲の環境や社会生活に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を育てる指導のあり方について研究する。
- エ 日常生活の中で言葉への興味や関心を育て、言葉の使い方を正しく導くとともに、相手の話を理解しようとする態度を養うために、経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲を育て、言葉に対する感覚や思考力を豊かにし、伝え合う喜びを感じる指導のあり方について研究する。
- オ 多様な体験の中で、豊かな感性と表現力の芽生えを養うために、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、感性や創造性を豊かにする指導のあり方について研究する。

◇ 小 学 校

(1) 国 語

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の各領域において、日常生活に必要とされるさまざまな言語活動を通して、国語科で正確に理解し適切に表現する能力を身に付けることができる指導方法について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、児童が身に付けた知識及び技能などを活用して課題を探究することができる学習形態や指導方法について研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、一人一人のよさを認め、それを生かすことができる指導計画、学習評価のあり方について研究する。

(2) 社 会

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、児童が社会とつながる教材、とりわけ問いをもって追究し社会生活に生かすことができる教材の開発、社会的事象の見方・考え方を働かせて考えを深めるなど指導方法の工夫を行うとともに、問題解決的な学習を一層充実させることを通して、社会的事象について調べまとめる技能や、社会への関わりを選択・判断する力を高める指導のあり方について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、問題解決的な学習過程の構成や児童が問いを追究する指導法を工夫し、社会的事象の見方・考え方を働かせながら知識や概念を習得することを重視するとともに、それらを活用し、よりよい社会を考え学習したことを生かす指導のあり方について研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、児童一人一人の学習状況を的確に評価し、その結果を児童への即時支援やその後の授業改善に生かす学習評価のあり方について研究する。

(3) 算 数

ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、児童が数学的な見方・考え方を働かせ、自分で工夫して問題を解決したり、新しい考え方や処理の仕方を生み出したりすることができる指導のあり方について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、数学的活動の一層の充実を図るようにし、日常生活における事象を算数と関連付けて考察したり、考えを表現し伝え合う活動を積極的に取り入れたりして、数学のよさに気付くことができる指導のあり方について研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、児童が学習の過程と成果を振り返り、よりよく問題解決できたことを実感する機会を設けるようにするとともに、児童の学習状況を把握して、学習指導の改善に生かすことができる学習評価のあり方について研究する。

(4) 理 科

ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事象・現象についての理解を深め、主体的・協働的な学びの中で科学的に問題解決する力を育成する指導のあり方について研究する。

イ 自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養うために、児童一人一人が粘り強く他者と関わりながら、自然の事物・現象に進んで関わろうとする指導のあり方について研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、目標に準拠した観点別学習状況の評価を一層重視し、児童の学習改善と教師の指導改善につながる学習評価のあり方について研究する。

(5) 生活

ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、具体的な活動や体験を一層重視し、身近な人々、社会及び自然とのかかわりを深め、多様な表現方法で交流する活動を活性化することで、気づきを深めることができる指導方法について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、一人一人の興味・関心に基づいた思いや願いを大切にし、単元目標を明確化・具体化した到達目標を明らかにすることで、意欲を高める指導のあり方について研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、単元で育てたい具体的な児童の姿を明確にして、児童の活動や体験そのものを多面的に見取り、成長をとらえることができる学習評価のあり方について研究する。

(6) 音楽

ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるための指導方法や、音楽表現を工夫し音楽を味わって聴くことができるようにする指導の在り方について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培うための指導方法を研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、児童の学習の達成状況を的確に把握するために、一人一人のよさを認め、それを活かす指導計画、評価規準や評価の具体的な方法について研究する。

(7) 図画工作

ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、対象や事象を捉える造形的な視点を育み、材料や用具を適切に使い創造的につくったり表したりできるようにするとともに、造形的なよさや美しさ、表したいこと表し方などについて創造的に発想や構想し、自分の見方や感じ方を深めることができる題材や指導方法について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、児童自らがつくり出す喜びを味わい、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度や豊かな情操を養う指導の在り方について研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、児童一人一人が本来持っているよさや可能性を捉え、それらを生かすことのできる学習過程の工夫や評価のあり方について研究する。

(8) 家庭

ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、家族や家庭、衣食住、消費や環境に関する実践的・体験的な活動を通して日常生活に必要な基礎的な理解を図り技能を身につけるとともに、日常生活の中から問題を見出し課題を解決する力を養うことができる指導方法について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、家庭生活を大切にする心情を育くみ、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う指導の在り方を研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、児童の学習の成果を的確に評価するために、目標に照らして実現状況を把握し学習指導の改善に生かすための評価のあり方について研究する。

(9) 体育

ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、児童の発達段階に応じて、教えるべき内容と考えさせる内容を明らかにするとともに、仲間や運動と豊かに対話しながら自らの課題を解決しようとする指導のあり方について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、児童の能力や適性、興味や関心等に応じた運動の楽しさや喜びを味わわせるとともに、進んで体力を高めるための実践力を育成する指導のあり方について研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、児童の実態を的確に把握し、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の観点から具体の評価規準を作成するとともに、いつ、どのような方法で行うのが適切か等、学習評価のあり方について研究する。

(10) 英語

ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、たくさんの英語音声のインプットとアウトプットを図り、言語活動の場を通して、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる指導方法について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、英語を用いて、主体的にコミュニケーションを図る楽しさや大切さを感じることのできる指導のあり方について研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、できるようになったこと・わかったことを児童自らが認識し、次への学びに活かすことのできる評価のあり方について研究する。

(11) 道徳

- ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面多角的に考え、自己の生き方についての考えを深め、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことができる指導の在り方について研究する。
- イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、問題解決的な学習、体験的な学習を取り入れるなど、教材に応じて効果的な学習を設定し、多様な指導方法を工夫する。児童が自分との関わりで道徳的価値を理解したり、物事を多面的・多角的に考えたり、自分の問題として自己を見つめたりすることができるような指導の在り方について研究する。
- ウ 指導と評価の一体化を図り、明確な意図をもって指導の計画を立て、授業の中で予想される具体的な児童の学習状況を想定し、学習指導過程や指導方法を工夫する。道徳的価値に関わる道徳性を養うために、「考え、議論する」道徳の授業を行い、その指導の工夫により表出した児童の学びの姿を継続的に把握し、評価していく。さらに、授業の振り返りの観点を立て、授業改善や児童の成長に生かしていくことができる学習評価の在り方について研究する。

(12) 総合的な学習の時間

- ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、各教科・領域等で身に付けた知識や技能を相互に関連付けながら、他者と協同して問題を解決しようとしたり、言語により分析し、まとめたり表現したりすることができる指導方法について研究する。
- イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、地域や学校、児童の実態などに応じて、教科・領域等の枠を超えた横断的・総合的な学習や探究的な学習、児童の興味・関心等に基づく学習など、地域の教材やさまざまな学習環境を積極的に活用し、児童の意欲を高める指導のあり方について研究する。
- ウ 指導と評価の一体化を図り、単元で育てたい資質・能力を明確にして、総合的な学習の時間の全体計画及び年間指導計画に基づいて、児童の活動や体験そのものを多面的に見取り、学びの深まりや児童の成長を総合的にとらえることができる学習評価のあり方について研究する。

(13) 学級活動

- ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、合意形成や意思決定の方法や役割を分担して協力して実践する方法等を理解し、実践を通して人間関係の形成を図る指導のあり方について研究する。
- イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、児童や学級・学校の実態及び発達段階や学級の課題に応じて意欲的に社会参画に関わろうとするような指導内容の重点化を図るとともに、活動の内容や指導のあり方について研究する。
- ウ 指導と評価の一体化を図り、事前・本時・事後の活動を通して学級活動ノートや掲示物等、

児童の活動の様子や変容を看取り自己実現をめざすことのできる学習評価のあり方について研究する。

(14) 児童会活動

ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、学校生活の充実と向上を図るための課題を見だし、解決するために話し合い、人間関係をよりよく形成したり、楽しく豊かな生活をつくったりできるようにする指導方法について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、異年齢により構成される組織による自治的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、多様な他者と互いのよさを生かして協働し、よりよい学校生活をつくろうとする態度を養う指導方法について研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、活動の結果だけでなく、活動の過程における児童の努力や意欲などを積極的に認めたり、児童のよさを多面的・総合的に評価したりする学習評価のあり方について研究する。

(15) クラブ活動

ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、異年齢児童による集団活動での相互の交流を深め、共通の興味・関心を追求する集団活動を通して、よりよい人間関係や社会性をはぐくみ、実践的な態度を育てることができるクラブ活動の内容や指導方法について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、互いに認め合い、協力し合い、助け合いながら、個性の伸長を図り、満足感や成就感を味わうクラブ活動の指導を通して、児童の発想や創意工夫を十分尊重し、児童自らが共通の興味・関心を、仲間と協力して自発的・自治的に追求することができる指導方法について研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、クラブ活動や学級・学校生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生活の課題を見つけ、解決を図り、自己実現を図ろうとする態度を養う学習評価のあり方について研究する。

(16) 学校行事

ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、特別の教科「道徳」や学級活動等と関連づけ、公共の精神の育成、異年齢集団での交流や地域の人々とのかかわり、自然・文化とのふれあい、ボランティア活動などの望ましい集団活動や感動的な体験活動を通して、効果的な指導のあり方について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、様々な学校行事の指導計画を作成し、集団への所属感や連帯意識を深めつつ、望ましい人間関係を形成し、豊かな人間性や社会性を育てる活動内容や指導方法について研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、がんばりカードやふり返りカード等を活用し、自己のめあてをより明確にしたり、自己の生き方を深めることにつなげたりすることができる学習評価の

あり方について研究する。

(17) 特別支援教育

ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、インクルーシブ教育システムの充実と推進に向けた、合理的配慮に基づく学習環境の整備を進めるとともに、ユニバーサルデザインを取り入れた指導・支援のあり方について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、新学習指導要領の各教科の項目に明記された「学習上の困難に応じた指導の工夫」が各校園において計画的、組織的に広く進むよう、指導・支援方法の研究を深める。

ウ 指導と評価の一体化を図り、個に応じた指導・支援のあり方を工夫するために、支援を必要とする児童の的確な実態把握に努め、合理的配慮の観点をつまえた「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を積極的に活用し、多様化する一人一人のニーズに応じた具体的な指導・支援の方法について研究する。その計画の作成・活用にあたって、特別支援教育コーディネーターを核とした校内支援体制の充実、特別支援学校のセンター的機能の活用、関係機関との連携のあり方などについて研究する。

(18) 保健教育

ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、心身の健全な発達と健康の保持増進に関する基礎的・基本的事項の主体的な理解を図り、心身の健康の問題を自分で判断し、改善できる資質や能力を育てる指導方法について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、家庭との連携を図り、児童が身に付けた知識や技能などを日常生活に活用する実践的な態度を育てる指導のあり方について研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、児童の学習の達成状況を的確に評価するために、一人一人のよさを認め、それを生かすことができる学習評価のあり方について研究する。

(19) 学校給食食育

ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、食生活や食の選択について、正しい知識・情報に基づき、自ら管理したり判断したりできる能力を養い、食生活や食の選択についても、正しい知識・情報に基づき、自ら管理したり判断したりできる能力を養うことができる指導方法について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、主体的に、自他の健康な食生活を実現しようとし、食や食文化、食料の生産等に関わる人々に対して感謝する心を育み、食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を養うことができる指導方法について研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、成果指標では、全体計画の作成時に設定した評価指標の目標値を基準に取組による変化、活動指標では、学校における食育の取組状況等における評価のあり方について研究を行い、食育計画の改善につなげる。

(20) 生活指導

ア 児童理解を基盤とした生活指導を推進するために、「いじめ」「不登校」をはじめとした生活指導上の諸問題及び児童への「虐待」問題について、人間尊重の教育を一層推進する観点から児童理解に努めるとともに、教育全体に関わる問題として受けとめ、全ての教育活動の中で機能する生活指導のあり方と家庭・地域・関係諸機関との連携しながら行う指導のあり方について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、児童の生活背景を把握したうえで、児童の願い、悩み、不安を、単に個人の課題としてではなく、所属する集団の全ての児童が自らの課題として受けとめ、課題解決に向けて、主体的・創造的に働きかけることのできる集団へと高める指導のあり方について研究する。

ウ 幼稚園・保育所・小学校・中学校の連携に基づく生活指導体制を確立するために、保護者や地域社会の願いを的確に受けとめ、幼稚園・保育所・小学校・中学校の連携を密にし、一人一人の幼児・児童・生徒の成長・発達に即した一貫性のある効果的な指導のあり方について研究する。

(21) 学校図書館教育

ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、生涯にわたって読書に親しむ資質や能力を育成し、読書を通して豊かな感性や情操を育むとともに、国語科に限らず各教科・領域等における指導との関連を図った読書活動のあり方について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、学校図書館を計画的に活用し、自ら学ぶ態度の育成を図り、図書資料をはじめとする多様なメディアを生かした情報・資料を収集・選択・活用する能力を育成し、主体的な学習活動を支援する学習・情報センターとしての学校図書館のあり方をと指導方法について研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、積極的に学校図書館を活用し、意欲的に読書活動に取り組める指導と評価について研究する。

(22) 視聴覚教育

ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、ICT 機器の効果的な活用と情報活用能力を系統的に育成するための指導方法について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、視聴覚教材（デジタル教科書・NHK for School 等）を効果的に活用する指導方法について研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、発達段階に応じた情報活用能力到達目標等を有効に活用する学習評価のあり方について研究する。

(23) 新聞教育

ア 新聞に関する基礎的な知識及び技能を習得し、これらを各教科・領域などで活用する際に必要となる思考力、判断力、表現力その他の能力を育成する。そのために、新聞づくりや新聞の活用を通して、情報を整理したり、情報と情報の関係を的確にとらえたりするなど情報

の扱い方の指導について研究する。

イ 児童が身に付けた知識及び技能を、各教科・領域等で主体的に生かすことができるようにする。そのために新聞教育の位置付けと新聞を生かした指導、一人一人の興味・関心や表現の工夫についての支援のあり方について研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図り、児童の学習の達成状況を評価するために、児童一人一人のよさを認め、それを生かす指導計画、題材、評価のあり方について研究する。

(24) 国際理解教育

ア 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、人権の尊重を基盤として、多様性と相互依存性への認識を高め、情報をクリティカルに読み解き豊かにコミュニケーションする力を育む学習活動のあり方について研究する。

イ 主体的に学習に取り組む態度を育成するために、自己肯定感を高め、多様な価値や行動様式を認め他者と協働する力を育む学習活動の在り方について研究する。

ウ 指導と評価の一体化を図るために、学習目標と評価のポイントを明確にし、行動や態度に表れた学習の成果を多角的に見取ることのできる学習評価の在り方について研究する。

◇ 中学校

(1) 国語

- ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成を図るために、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導方法について研究する。
- イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、小・中学校の9年間を見通した学習の系統性を重視し、生徒の実態及び習熟の程度に応じた指導方法やICTを活用した指導方法について研究する。
- ウ 伝統的な言語文化に親しみ、継承・発展させる態度を育成するために、古典に親しむ態度を育成する指導方法、生活に役立つ書写の指導方法、読書を通して人生を豊かにしようとする態度を養う指導方法等について研究する。
- エ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、目標に準拠した評価を行い、指導と評価の一体化をめざした評価計画、指導内容や生徒の学習状況に応じた評価の方法について研究する。

(2) 社会

- ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成を図るために、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を育成するとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る学習指導のあり方について研究する。
- イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、生徒の実態や習熟の程度に応じた課題学習、補充的な学習、発展的な学習などの学習活動や、生徒一人一人の主体的な学習を促す「問い」や「資料」を中心に据えた授業展開、ICTを活用した指導方法などについて研究する。
- ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、目標に準拠した評価を行い、指導と評価の一体化をめざした評価計画、指導内容や生徒の学習状況に応じた評価の方法について研究する。
- エ 社会科の目標を達成するために、小学校社会科の内容との関連及び各分野相互の有機的な関連を図るとともに、地理的分野及び歴史的分野の基礎の上に公民的分野の学習を展開する教科の基本的な構造を踏まえた指導計画、また、高等学校地理歴史科や公民科との接続を踏まえた指導計画について研究する。

(3) 数学

- ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成を図るために、生徒が目的意識をもって主体的に取り組む「数学的活動」を各領域で行い、問題を解決するために

必要な数学的な思考力、判断力、表現力を育むとともに数学的に考える資質・能力を育成することや「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、一人一人の生徒が様々な思考や創意工夫を行い、意欲的な追究を継続することができるように、学習内容の習熟の程度に応じた指導方法について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、「数学への関心・意欲・態度」「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」「数量や図形などについての知識・理解」の観点別に、目標に準拠した評価を行い、新学習指導要領の観点も視野に入れながら指導と評価の一体化についてさらに研究を進める。

(4) 理科

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成を図るために、自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成するとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学習指導のあり方について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、科学を学ぶ意義や有用性を実感させ科学への関心を高めるとともに、生徒の興味・関心に応じた課題学習、補充的な学習、発展的な学習やICT機器を活用した学習活動などを取り入れた指導方法の改善について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、小学校との接続に配慮し、科学の基本的な見方や概念を柱として内容を構成するとともに、目標に準拠した評価のあり方や指導と評価の一体化について研究する。

(5) 音楽

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、音楽的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、豊かな音楽体験を積み重ね、音楽を愛好する心情を育て、音楽に対する感性を豊かにする「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った指導方法について研究する。

イ 音楽文化について理解を深め、豊かな情操を培うために、校種間連携の機会などの多様な活動場面を通して、生活や社会の中の音や音楽への興味・関心を高め、創意工夫して表現し主体的に鑑賞する能力を育てる指導方法について研究する。

ウ 個に応じた学習指導を展開するために、題材目標の設定や教材の工夫・改善を行うとともに、生徒一人一人のよさを生かした指導やICTを活用した指導方法について研究する。

エ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、指導と評価を一体化させた指導計画・評価計画、指導内容や生徒の学習状況に応じた評価の方法について研究する。

(6) 美術

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成を図るために、造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習を充実させるとともに、題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた適切な指導、効果的な評価のあり方について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、学習内容について調和のとれた指導計画の作成、育成する資質・能力を明確にし、生徒の実態に応じた題材の設定、ICT機器を効果的に活用した指導方法について研究する。

ウ 美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養うために、行事との関連や大阪の教育資源の活用、我が国の美術文化をはじめとして、諸外国の美術や表現との出会い、学校・保護者・地域・校区小学校などとの連携など多様な活動場면을研究する。

(7) 保健体育

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組みを工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることのできる学習や、健康な生活と疾病の予防について課題を発見できる学習のあり方について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、生徒一人一人の体力や体の状態を把握したうえで、体力の向上を図る能力を育て、心身の調和的発達を図れるよう運動の計画を立てさせる。また、個人生活における健康・安全に関する理解が図れるよう研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、具体的目標に準拠した評価を行い、指導と評価の一体化をめざした評価計画、指導内容や生徒の学習状況に応じた評価方法について研究する。

(8) 技術・家庭

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成を図るために、生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能の習得を図る。また、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養うとともに、他教科等との連携を図り、各分野の指導内容と指導のあり方について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、学習課題の解決に必要な技能の習得状況を把握し、必要に応じて少人数指導や教材・教具を工夫することで、生徒が自ら設定した課題の解決策を実現できるよう、効果的な指導のあり方について研究する。また、生徒一人一人が興味・関心を踏まえた学習課題を設定できるよう、発達の段階に応じて、問題を見いだす範囲を生徒の生活範囲から社会に徐々に広げていくなど、効果的な題材計画について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、指導方法の改善と工夫を図り、指導と評価の一体化など、評価のあり方について研究する。

(9) 英語(外国語)

- ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成等を図るために、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成するとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業のあり方について研究する。
- イ 個に応じた指導のあり方を工夫するために、外国語を学ぶ意義やコミュニケーションの有用性を実感させるとともに、ICTを活用する等生徒の興味・関心や実態に応じた課題学習、学習活動を取り入れた指導方法のあり方改善について研究する。
- ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、「CAN-DO」リスト形式での学習到達目標を設定の上、生徒一人一人の成果を確認し、指導に生かして、確実に生徒の力を伸ばしていくとともに、生徒自身が改善の努力目標をもち、自己評価能力を育て、自力で学ぶ力を育成していく評価のあり方を研究する。
- エ 小学校における外国語活動・外国語科との関連を図るために、小学校における外国語(英語)教育を通じて培われた基礎をふまえながら中学校での英語教育への円滑な接続が実施できるよう小学校との連携のあり方を研究する。

(10) 道徳

- ア 人間尊重の精神を更に深化させ、生徒の内面に根ざした道徳性を育成するために、道徳教育の全体計画では、道徳教育の要としての道徳科の役割と重要性をふまえつつ、教育活動全体を通じて行う道徳教育との関連を生かした指導を充実する。また、計画そのものに具体性をもたせ、教育活動全体において生徒の内面に根ざした道徳性を育てる指導の充実を図るとともに、道徳的実践につながる道徳教育のあり方について研究する。
- イ 生徒が自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、道徳科の年間指導計画では、いずれの学年でも内容項目を全て取りあげて計画的に位置付けながら重点化を図る。また、道徳科の教科書を活用した授業では、学習指導要領に基づいて、生徒自らが人間としてよりよく生きる深い学びを獲得できるよう、教材分析を行うとともに発問を工夫し、生徒と教師、生徒相互の対話を大切にした指導のあり方について研究する。

(11) 総合的な学習の時間

- ア 自ら課題を解決する資質や能力を育て、自己の生き方を考えることができるようにするために、総合的な学習の時間と各教科等の関連を図りつつ、総合的な学習の時間を通してどのような資質・能力を育成するのかということ、各学校の教育目標をふまえて設定するとともに、その目標の達成に向けたカリキュラム・マネジメントのあり方について研究する。
- イ 教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力を育成するために、総合的な学習の時間の「課題の設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現」の探求のプロセスを重視し、協働して課題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したり

する学習活動、コンピュータを活用して情報を収集・整理・発信する学習活動のあり方について研究する。

(12) 特別活動

①学級活動・生徒会活動・学校行事

ア 学級活動では、学級や学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、学級での話し合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに、自主的、実践的に取り組むことを通して、自己実現を図ろうとする活動について研究する。

イ 生徒会活動では、異年齢の生徒同士で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して運営することに自主的・実践的に取り組むことを通して、行動の仕方を身に付けるように研究する。

ウ 学校行事では、全校又は学年の生徒で協力し、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養いながら、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるよう研究する。

②進路指導

ア 生徒が自らの個性を伸ばし、自己実現をめざして、自己の生き方を考え、将来に対する目的意識をもって主体的に進路選択ができるようにするため、進路指導の目標を明確にし、生涯にわたる系統的な指導内容、3年間を見通した指導計画などについて研究する。

イ 進路について目的意識を高めるために、進路に関わる体験活動、進路情報・資料を活用した学級活動や進路相談との関連を図り、ガイダンス機能の充実について研究する。

ウ 社会の一員としてのあり方や興味・関心に基づく勤労観・職業観を育成するために、生徒一人ひとりが将来の働き方・生き方を主体的に考え行動できるよう、「育成すべき能力」「達成すべき基準」を示しつつ、生き方や進路に関する体験的な学習を通して、実社会で働く人々からの支援や、地域社会と連携した指導方法など、系統的なキャリア教育の進め方について研究する。

(13) 生活指導

ア 生徒理解を基盤とした生活指導を推進するために、「いじめ」「不登校」をはじめとする生活指導上の諸問題について、人間尊重の教育を一層推進する観点から生徒理解に努めるとともに、教育全体に関わる基本的な問題として正しく受けとめ、全ての教育活動の中で機能する生活指導のあり方と家庭・地域・関係諸機関との連携について研究する。

イ 一人一人の生徒を生かした集団の育成を図るために、生徒の生活背景を正しく把握したうえで、生徒の願い、悩み、不安を単に個人の課題としてではなく、所属する集団の全ての生徒が自らの課題として正しく受けとめ、自主的に判断し、課題解決に向けて、主体的・創造的に働きかけることのできる集団を育成する指導のあり方について研究する。

ウ 小学校・中学校・高等学校の連携に基づく生活指導体制を確立するために、保護者や地域社会の願いを正しく受けとめ、小学校・中学校・高等学校相互の連携を密にし、一人一人の生徒の成長・発達に即した一貫性のある効果的な指導のあり方について研究する。

(14) 特別支援教育

ア 生徒の自立への可能性を最大限に伸ばすために、学校の教育活動全体を通じて、共に育ち共に学びあう交流および共同学習を進め、生徒の多様な経験の場とし、社会性を養い、好ましい人間関係を育てる効果的な指導・支援の方法について研究する。

イ 個に応じた指導・支援のあり方を工夫するために、支援を必要とする生徒の実態把握に努め、合理的配慮の観点をふまえ、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を積極的に活用し、発達障がいを含め多様化する一人一人のニーズに応じた具体的な指導・支援の方法について研究する。

ウ 生徒の実態を的確に把握し、指導・支援を充実するために、特別支援教育コーディネーターを核とした校内支援体制の充実、特別支援学校のセンター的機能の活用、関係機関との連携のあり方などについて研究する。

エ インクルーシブ教育システムの充実と推進のために、生徒が共に学ぶための合理的配慮に基づく学習環境の整備として、ユニバーサルデザインを取り入れた指導・支援のあり方について研究する。

オ 新学習指導要領の各教科の項目に明記された「学習上の困難に応じた指導の工夫」が広く進むよう、指導・支援方法の研究を深める。

(15) 保健養護（保健教育）

ア 心豊かに生きようとする力を養うために、生徒の一人一人が自己肯定感をもち、よりよい人間関係の構築が図れるよう、学校・家庭・関係諸機関との効果的な相互連携のあり方や、健康相談について研究する。

イ 健康に対する関心を高め、疾病などについての科学的な理解を通して、適切に判断し行動できる資質や能力を養うために、関連する教科や特別活動、総合的な学習の時間などを活用した保健教育の充実と指導方法について研究する。

ウ 生徒が安全、安心に学校生活を送るために、学校管理下での災害の予防に関する短期的・長期的展望による指導内容を充実させ、さらに自然災害発生時の対応と生徒の心のケアについて研究する。

(16) 情報技術

①情報教育

情報教育の深化・充実を図るために、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動などの目標や内容をふまえ、適切な情報手段やICT機器を利用しながら、自ら課題を明確にし、解決する能力や態度を育てる指導方法について研究する。

②新聞教育

- ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図るうえで必要な言語環境を整え、生徒の言語活動の充実を図る方策について研究する。その際、新聞を情報の収集・摂取の有力な言語環境として、各教科で新聞の情報摂取から情報創造、情報伝達の指導過程を組織する。
- イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、学校や生徒の実態に応じ、個別指導やグループ別指導、生徒の興味・関心等に応じた課題学習、教師間の協力的な指導など指導方法や指導体制について研究する。
- ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、指導の成果だけでなく、指導の過程における学習に対する努力や意欲などを総合的にとらえる評価のあり方を研究する。

(17) 教育メディア

①学校図書館教育

- ア 読書センターとしての学校図書館。豊かな感性を育成するため、学校図書館の活性化を進め本に触れ、読書に親しむ態度を養い、日常生活における読書活動を活発にする方法について研究する。
- イ 学習・情報センターとしての学校図書館。生徒があらゆる学習に主体的に活用するため、資料や情報の収集・選択・活用能力を育成する学校図書館の運営のあり方や利用指導の方法について研究する。

②視聴覚教育

基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成のために、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動などの指導において、視聴覚教材・ICT機器を活用するとともに、視聴覚教材・放送教材・ICT機器の特性を生かした利用方法などについて研究する。

◇ 高等学校

(1) 国 語

ア 新学習指導要領の構造及び内容をふまえ、国語科の各領域における（改訂された授業時数での）言語活動を通して、自己肯定感を高め、他者とともに生き、課題を解決していくための国語の能力を確実に身に付けることができる指導方法について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るとともに、進路等を考慮し、生徒の実態及び学習内容の習熟の程度等に応じた指導方法について研究する。

ウ 伝統的な言語文化に対する理解・関心を深めるとともに、国語を尊重し、その知識・技能を積極的に活用する態度を育てるための指導方法について研究する。

エ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、指導と評価の一体化を進めるとともに、「何ができるようになるか」という観点で評価するための場面や方法について研究する。

(2) 地 理 歴 史

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成を図るとともに、学びに向かう力、人間性等を涵養するために、義務教育段階での社会科における学習内容との連続性や公民科との関連性に配慮しながら、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする態度を育てるための指導方法について研究する。

イ グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成するとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導方法について研究する。

ウ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、生徒の発達段階や地理、世界史、日本史の専門性・系統性・関連性に留意しながら、地図、年表等のさまざまな資料やICTを活用した指導方法について研究する。

エ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、学習内容の考察についての論理的な説明、立場や根拠を明確にした議論などに対する評価方法について研究する。また、指導と評価の一体化をさらに進め、目標に準拠した学習評価のあり方について研究する。

(3) 公 民

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成を図り、学びに向かう力、人間性等を涵養するために、義務教育段階での社会科における学習内容との連続性や地理歴史科との関連性に配慮しながら、社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする態度を育てるための指導方法について研究する。

イ グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成するとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導方法について研究する。

ウ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、中学校社会科の学習をふまえ、習得した知識や概念などを用いて、各科目の特質に応じた諸課題について多面的・多角的に探究させるための指導方法について研究する。

エ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、学習内容の考察についての論理的な説明、立場や根拠を明確にした議論などに対する評価方法について研究する。また、指導と評価の一体化をさらに進め、目標に準拠した学習評価のあり方について研究する。

(4) 数 学

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成を図るために、数学的活動を通して数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深めるとともに、事象を数学的に考察し、表現・処理する能力を高めることができる指導のあり方について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度や粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、さらに問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養うための指導方法について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、「関心・意欲・態度」「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」「知識・理解」を柱とした観点別学習評価の推進を図るとともに、新学習指導要領の観点をふまえ、指導と評価の一体化について研究する。

(5) 理 科

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成を図るために、自然の事物・現象に関わり理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成するとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学習指導のあり方について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、科学を学ぶ意義や有用性を実感させるとともに、生徒の興味・関心や進路等の多様性をふまえた指導方法やICT機器を活用した指導方法について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、義務教育段階との接続に配慮し、科学の基本的な見方や概念を柱として内容を構成するとともに、目標に準拠した評価のあり方や指導と評価の一体化について研究する。

(6) 保 健 体 育

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成を図るために、発達の段階において運動の特性や魅力に応じ、合理的・計画的に運動が実践できるよう指導のあり方について研究する。また、健康・安全の課題に直面した場合に、的確な思考・判断に基づいて適切な意志決定を行い、行動の選択ができる指導のあり方について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、生徒一人ひとりのこれまでの学習をふまえ、単に知識や技能を身に付けるだけでなく、知識と技能を関連させて学習できる指導のあり方について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、指導と評価を一体化させた効果的・効率的な学習評価を推進するとともに、評価規準の作成や評価方法等について研究する。

(7) 芸術

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成を図るために、各科目における見方、考え方を働かせ、表現と鑑賞に必要な資質・能力を相互に関連させた学習活動を充実させるとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導計画及び指導内容の工夫・改善について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を明確にし、生徒が興味・関心や個性を生かして主体的に取り組むことができる教材及び指導方法について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、単に知識や技能的な面だけではなく、芸術に関する各科目の特質について理解させ、創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりする態度を総合的に評価する学習評価のあり方について研究する。

(8) 外国語

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成を図るために、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに、学びに向かう力、人間性を養う指導内容や指導方法及び主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業のあり方について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、中学校における指導をふまえ、生徒の実態及び習熟の程度に応じた指導方法について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、指導方法の改善と工夫を図るとともに、「CAN-DO」リストの形での学習到達目標設定や評価規準の作成、評価方法の工夫について研究する。

エ 生徒のコミュニケーション活動を一層充実するために、「聞くこと」「読むこと[やりとり]」「話すこと[発表]」「書くこと」を通じて5つの領域を総合的に育成する指導方法や、「英語で行うことを基本とする」授業のあり方について研究する。

(9) 家庭

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、家庭や地域及び社会における生活の中から見いだした課題に取り組むことで、生涯を見通して生活の課題を解決する力を身に付けさせるための指導のあり方について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、学習課題の解決に必要な技能の習得状

況を把握するとともに、家庭生活や地域の生活と関連付けた生活上の課題を解決する能力や生活を科学的に探究する方法を身に付けさせるための指導計画及び教材・教具の開発、指導方法について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、生徒の実態に応じた指導計画や題材設定を工夫し、評価に関する規準や計画等、評価のあり方について研究する。

(10) 情報

ア 主体的・対話的で深い学びの実現及び思考力、判断力、表現力の育成を図るために、中学校における情報教育の学習内容との接続に配慮しながら実習を積極的に取り入れるとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切かつ実践的・主体的に活用できるような指導計画の作成、教材や実習課題等の開発について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、情報科における学習が他の教科・科目等の学習に役立つよう連携を図るとともに、生徒の実態を的確に把握し、生徒一人ひとりに応じた主体的な学習意欲を高めるための指導方法について研究する。

ウ 生徒が学習の意義や価値を実感できるよう、生徒の日々の達成状況を積極的に評価するとともに、情報技術の活用による問題の発見・解決を目的とする学習活動を通して、情報と情報技術の適切かつ効果的な活用の観点から学習過程や成果の評価について研究する。

(11) 工業

ア 基礎的な知識・技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成を図るため、工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して創造的に探究するための資質・能力を育成するとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導方法について研究する。

イ 生徒の意識の変化や進路の多様化をふまえ、ものづくりを通して自ら考え、課題を解決する実践的な態度を育成するために、個に応じた学習のあり方や主体的に学習する意欲を高めるための指導方法について研究する。

ウ 生徒の学習達成状況を的確に評価するために、工業の各分野における基礎的・基本的な知識及び技能の習得について、生徒の学習過程や到達の程度を把握するとともに、ものづくりを通して身に付けた知識・技能を活用できるよう、指導方法や評価方法について研究する。

エ 工業高校における安全教育を進めるため、安全についての理解と認識を深めるとともに、実験・実習における事故防止に向けた指導を徹底し、職業人に求められる倫理観を育むための指導方法について研究する。

(12) 商業

ア 商業の各分野に関する基礎的・基本的な学習を実践的・体験的な学習に活かすとともに、各科目間の連携を図ることで、ビジネスに関する課題を発見し解決する力を身に付け、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する指導方法について研究する。

イ 個に応じた学習指導を行うために、生徒の意識の変化や進路の多様化をふまえ、生徒一人ひとりが社会で求められる資質・能力を育むとともに、生涯にわたって探究を深める力を身に付けることができるよう、生徒の主体的な学習意欲を高めるための指導方法やICTを活用した指導方法について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、商業の各分野において身に付ける「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点に基づく評価のあり方について研究する。

(13) 福祉

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成を図るために、福祉の見方・考え方を働かせ、地域や福祉施設、産業界等との連携・交流等の実践的・体験的な学習活動を通じて、持続可能な福祉社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力の基礎を育成するとともに、「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、福祉を学ぶ意義や有用性を実感させ、地域福祉への関心を高めるとともに、科学的根拠に基づいて創造的に課題解決できる能力を育てる指導方法について研究する。また、ニーズの高度化と多様化に対応した人材育成に向け、ICT機器や介護ロボットを効果的に活用した指導方法について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、福祉の基本的な見方や概念を柱として内容を構成するとともに、目標に準拠した評価のあり方や指導と評価の一体化について研究する。

(14) 総合的な探究の時間

ア 自己のあり方生き方について考えることを通して主体的に課題を発見し解決していくための資質・能力を育成するとともに、探究の過程において課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、探究の意義や価値を理解し、創意工夫を生かした学習活動に取り組むための指導方法について研究する。

イ 生徒の学習意欲をより高め、探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養うため、自然体験や就業体験、ボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験・実習、調査・研究、発表や討論などの学習活動について研究する。

(15) 特別活動

ア 年間 35 単位時間以上のホームルーム活動を通して社会参画や自己実現など将来について主体的に取り組むことで、よりよい人間関係を形成するとともに、生徒同士の相互理解、教師と生徒の信頼関係の構築を図ることのできる指導計画・指導方法について研究する。

イ 生徒会活動を通じて異年齢の生徒同士で協力し諸問題の解決に向け自主的に取り組むことで、学校生活の充実と向上を図るため、それぞれの活動の意義を理解し主体的に実践できる

ような指導方法について研究する。

ウ 学校行事を通じて全校もしくは学年等の集団で協力することで、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養うため、それぞれの学校行事の意義を理解し主体的に実践できるような指導方法について研究する。

(16) 特別支援教育

ア 障がいのある生徒の自立や社会参加を促進するために、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、生徒に応じたキャリア教育の充実に向けて研究する。

イ 障がいのある生徒の実態を的確に把握し、「合理的配慮」への観点を踏まえた支援を充実するために、校内での支援体制の整備や特別支援学校のセンター的機能の活用、関係機関との連携のあり方などについて研究する。

(17) 生活指導

ア 生徒との信頼関係を深め、生徒指導を充実し、全校的な指導体制を機能化するために、中学校・高等学校の連携をより深めるとともに、情報交換を密にして、生徒の実態の把握に努め、全校的な共通理解を得るための方法について研究する。

イ 自主と自律の精神を向上させ、学校生活に充実感を抱かせるために、自己のあり方生き方について考え、自発的・積極的に自己を表現しようとする意欲を向上させるよう、集団育成や個別指導のあり方について研究する。

ウ 人間尊重を基盤とした共同生活において望ましい能力と態度を養うために、民主的な社会の形成者としての自覚と責任感の向上が図れるよう、教育活動全体を通してあらゆる場で指導する方法のあり方について研究する。とりわけ、人間尊重の教育を一層推進する観点から、「いじめ」「中途退学」「長期欠席」など、生活指導上の諸課題についての効果的な指導のあり方について研究する。

エ 生徒の経験を広め、社会性を養うとともに、好ましい人間関係の育成に向け、教育活動全体を通して、共に育ち共に学びあう交流を進めるための必要な配慮や効果的な場について研究する。

(18) 学校図書館教育

ア 生徒が学校図書館を利用し、その機能を活用する能力を育成するために、生徒の実態等に応じた各教科・科目の目標の設定とその達成に向けた計画的な指導方法について研究する。

イ 学校図書館の利用をとおして、生涯を通じて読書に親しむ姿勢を養うため、整備すべき資料の精選及び生徒の日常生活における読書活動・言語活動を充実させるための指導方法について研究する。

(19) 視聴覚教育

学習の効果を高めるために、視聴覚教材及びそれに関連する教育機器について理解を深め、各教科・科目の教材開発に努めるとともに、より効果的な活用方法について研究する。

(20) 進路指導

- ア 生徒が自己の生き方を考えた主体的な進路選択を行うために、生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促す教育を推進するとともに、ホームルームなどを基盤とした進路指導のあり方について研究する。
- イ 進路指導の校内体制を確立するために、学校の教育活動全体を通じたキャリア教育を実践し、全ての教職員が、キャリア教育の意義や必要性について共通理解を深めるとともに、組織的・継続的な進路指導体制のあり方やガイダンス機能の充実について研究する。
- ウ 学校・家庭・地域や産業界及び関係諸機関との連携を強化するために、大学をはじめとする高等教育機関、各種研究会、家庭・地域や産業界及び公共職業安定所等との連携の方法・内容などについて研究する。

(21) 定時制教育

- ア 定時制高等学校の生徒の実態に即した教育の内容と方法を確立するために、就業形態や学習歴などが多様化している実態を把握するとともに、生徒の適性、興味・関心、進路希望等に応じて、一人ひとりの能力や個性を伸ばすことができるよう、学習指導のあり方について研究する。
- イ 定時制高等学校の生徒の実態に即した生活指導を進めるために、基本的な生活習慣や規範意識の定着、勤労観・職業観やコミュニケーション能力の育成など、社会の一員としての自覚や自主的・自律的な態度を身に付けさせるための生活指導のあり方について研究する。